

## 明治二十年九月中村座の絵本・役割番付

### — 影印と翻刻および周辺資料 (上) —

白戸満喜子

当館では平成十四年十月一日より、明治期刊行図書をホームページ上の「近代デジタルライブラリー」で公開している。平成十五年八月一日現在、全分野にわたり約四万七千冊（児童書・欧文図書を除く）を画像で見ることができ、本稿で翻刻を試みた歌舞伎番付の類は「近代デジタルライブラリー」では残念ながらほとんどが公開されていない。これは編者あるいは版元（出版者）の詳細が不明であり、著作権が確認できないという事情からである。今回、翻刻した番付以外の当館所蔵歌舞伎・浄瑠璃番付などを次号で周辺資料として併せて紹介するにあたり、掲載する版元（出版者）に関する情報を少しでもお寄せ頂き、一点でも多くの資料を公開できるように努めたい次第である。

歌舞伎興行の案内書もしくは宣伝書であった番付は、『歌舞伎事典』（平凡社、二〇〇〇）では歌舞伎番付と浄瑠璃番付に分類され、それぞれ顔見世番付・辻番付・役割番付・絵本番付の四種があるとしている。その内容・種類が多岐にわたるために十分な読解が困難である場合があり、また、出版された場所（江戸・大坂・京都）や時代による相違があり非常に複雑な出版物である。明治期の番付はその上に形態や印刷様式の変化が加わることでさらに複雑さを増すが、文字情報と画像情報を兼ね備える情報量の多さという点で看過できない資料である。

今回紹介する明治二十年九月中村座興行の番付は役割番付と絵本番付の組み合わせて構成されており、当館が所蔵する製版の番付としては時代的に新しいものである。明治期の番付は書物として扱われていなかったために保存状態が悪く、貼り込み帳として改装されたり、合冊されたりと原装を留めない場合がある。本資料は原装のままであり、他の資料と比較して保存状態や刷りの状態が良いことにより翻刻対象とした。周辺資料には浮世絵師による多色摺絵

表紙も多く、美術史あるいは印刷史の面からも興味深い資料であり、時代が明治に替わって官民ともに活字印刷が盛んになる一方で、絵画情報を伝える手段として製版技術が残った一例を垣間見ることができるといえよう。

《書誌事項》

当館請求記号：YDM74757（特5476）

当館タイトル：〔絵本役割〕

全四冊のうちの一冊

形態：二〇・一×十三・六cm 全六丁

原表紙：単色摺

丁付：なし

刊記：六丁裏郭外に「明治二十年九月六日御届」の朱印

同じく

「浅草区馬道町七丁目壱番地／編輯兼出版人 谷口貞次郎」

## 凡例

翻刻は底本の復元につとめ、次のような方針によった。

1 漢字は現行の字体としたが、漢字の字遣いは底本のままとし、変更しなかった。

(例) 茄藤田 || 嘉藤田

2 仮名遣い・清濁点・ルビ等は底本のままとした。

3 絵本番付の部分は役名をゴシック体、役者名を明朝体で表記し、底本の改行には従っていない。

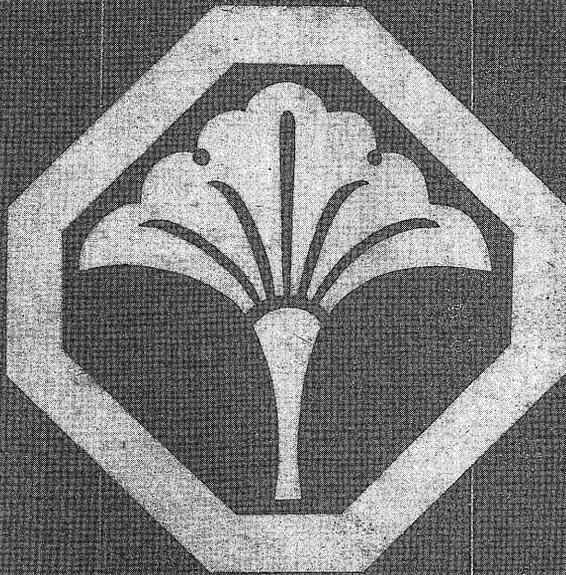
4 判読不能な部分は□で表記した。

特 54

76

傀儡浮舟  
淡路の浪丸  
横萩の息女中将姫  
新洞の娘夕して  
百性駒作

中村福助



特 54

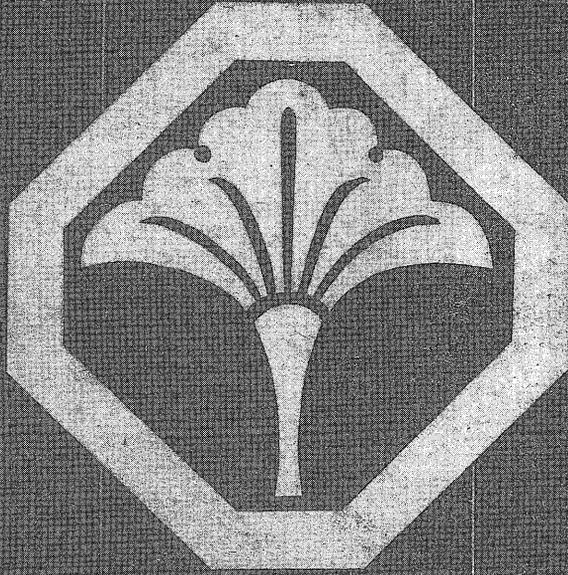
76

徳島県立  
徳島大学  
文学部  
国文学科  
国文学専攻  
国文学  
研究

中村福助



2022



御娘負様の御執持により

兩名揃ふ中村は福福一座の栄

盛る千種に横萩の御臺照日が奸悪も素性を

知りし稲太夫を散す紅葉のから紅い山根と俱に

置責の巧は恵美の押勝とかたらふ胤の隠し子を

世に出す手段豫てより恩を着せ置く遠内に明す

密事の口さがなく尊像奪ふ加藤田迄性は善

なる愛心に将盤藤の谷住の江の忠義の道も

立田川お品が案内に豊成公中将姫に伏家の再会

新洞左衛門は

露の玉取

夕メ女の助は

花の穂薄

葛雀山駒絆松樹

四幕

荻萱桑門筑紫鞆

貳幕

第二番目は封切と

脚色の筋も御好に

為替小判の槌印打

手馴の槌屋治右衛門を

連に頼みし亀屋忠兵衛

恋飛脚大和住来

貳幕



序幕 竜田紅葉狩の場



小遠次鶴五郎

同返し 春日野遊獵の場



市幕音田の葉持の場



日返一其日廿後楓の協



二幕目 淡路嶋海辺の場



同 龍神社暗争の場



三幕目 横秋館庭先の場



同 廣書院上使の場



二番目横状談話先の場 同 廣書院上便の場



大詰 中将姫雪真の場



同返し 草香峠雪降え場

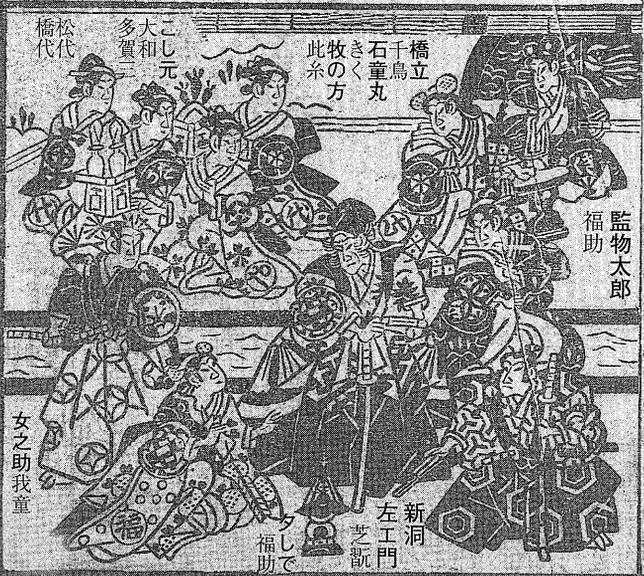




申幕 燗酒の段



同じく、高野山の場



中幕 福助の娘 日くく 高野の坊



第二番目序幕 井筒屋封印切の場





大切道行浄瑠璃之場

浄瑠璃

未だ初旅の  
梅川も  
松を目的の  
二人連

我故郷覚軒



清元喜久太夫  
清元延寿太夫  
清元志津太夫  
清元名美太夫  
清元小家内太夫  
清元喜和太夫  
清元時太夫  
清元政尾太夫  
清元順恵太夫  
清元仲太夫  
三味線  
上調子  
清元梅吉  
清元菊輔  
清元里八  
清元菊平







判人納兵衛  
荒川体吾  
下部三内  
遣り手およく  
奥女中若嶮  
下部角平  
百性与作  
仕丁太郎又  
在郷婆おさが  
仕丁次郎又  
百性橋兵衛  
漁師若蔵  
百性畑助  
仕丁四郎又  
わかいもの太助  
勢子軍平  
わかいもの左助  
勢子登平  
同鳥平  
同甲太  
同乙次  
手下荒八  
同九郎蔵  
同四郎蔵  
同松六  
同筆助  
同岨八  
わかいもの小六  
同宇若  
同与八  
同嘉助  
同夫橋太夫  
農夫蔵人  
黒塚蔵人

中村秀五郎  
澤村宇十郎  
澤村宇十郎  
市川森之助  
市川森之助  
市川森之助  
中村甚五郎  
中村甚五郎  
中村鷹八  
坂東市家六  
中村甚六  
中村甚六  
片岡豆升  
片岡豆升  
中村銀十郎  
片岡市作  
片岡市松  
中村鷹六  
尾上尾二松  
坂東家久三郎  
中村鶴作  
市川紅蔵  
市川紅蔵  
嵐璃寿  
尾上扇太郎  
中村翫児郎  
中村雀次郎  
中村福松  
片岡我广口  
中村鶴蔵  
中村鶴蔵

漁師若七  
たいこ持どんし  
漁師沖蔵  
百性麦六  
下部宗内  
下部宗内  
大尽客与太兵衛  
下部未内  
佐伯伊織  
加古川口馬  
百性米蔵  
こし元夕顔  
茶屋女おせん  
こし元小萩  
同朝藤  
同桔梗  
同千種  
同相葉  
同小菊  
同若葉  
同青葉  
こし元萩野  
茶屋女おむら  
仲女呉竹  
仲女梅野  
侍女葉末  
侍女葉末  
仲居松野  
老女山根  
老女一角  
駒形安楽坊  
同宿安楽坊  
百性吞六  
松井嘉藤太  
国岡将監

中村成三郎  
山崎国蔵  
山崎国蔵  
中村芝次郎  
中村芝次郎  
片岡丸童  
片岡丸童  
片岡仁三郎  
片岡仁三郎  
片岡仁三郎  
坂東大和  
坂東大和  
尾上梅之助  
尾上梅之助  
岩井橋代  
坂東橋代  
尾上多賀三  
嵐幸猿  
中村若之助  
中村若之助  
荻野伊三郎  
荻野伊三郎  
坂東あやめ  
坂東あやめ  
岩井此糸  
岩井此糸  
中村勘五郎  
中村勘五郎  
中村勘五郎  
中村勘五郎  
片岡市蔵  
片岡市蔵



同宿宗悦坊  
 一番頭弥八  
 小坊主あめん坊  
 同 さくらん坊  
 同 思案坊  
 同 かくれん坊  
 同 あつがり坊  
 同 さむがり坊  
 同 月若  
 同 友若  
 一 遠見の親仁  
 一 空屋僧竹阿弥

中村鶴藏  
 中村鶴藏  
 市川新子  
 市川丹甫  
 市川□太郎  
 尾上小梅  
 尾上極太郎  
 中村雀丸  
 中村芝□三郎  
 中村兒福  
 片岡龜藏  
 坂東竹松

竹本組太夫  
 竹本久我太夫  
 竹本菖蒲太夫

浄瑠璃  
 当興行中定価表

一 上等棧舗 壺間付 金三円五十銭  
 一 同 高土間 同 金貳円五十銭  
 一 同 平土間 同 金壹円七十銭  
 一 中等平土間 御壺名 金貳十五銭  
 一 大入場 御壺名 金拾貳銭  
 右之通りに御座候也

明治二十年九月廿六日午前十時三十分より  
 開場午後六時三十分迄二不残奉入御覧に候

同宿清悦坊  
 丹波屋八右衛門  
 空也僧松阿弥  
 惠美の押勝  
 横萩の室照日の前  
 桑原女之助  
 亀屋忠兵衛  
 新の口村の孫右衛門  
 左京の養女千寿  
 兎 鶴若丸  
 兎 鶴明阿弥  
 空也僧明阿弥  
 鶴見銀杏之助

片岡市蔵  
 片岡市蔵  
 片岡東吉  
 片岡我童  
 片岡我童  
 片岡我童  
 片岡我童  
 片岡我童  
 中村鶴子  
 中村鶴子  
 中村鶴子  
 中村鶴子

三味線  
 鶴澤市作  
 鶴澤宗吉  
 鶴澤安太郎

千秋万歳大々可  
 澤村百蔵更  
 頭取 中村七右衛門

西鳥越町  
 中村座

座主 中村明石

明治二十年九月廿六日午前十時三十分より  
 開場午後六時三十分迄二不残奉入御覧に候

